

## 蒲生干潟・安定化しつつある地形

**【概要】** 七北田川の河口付近に導流堤が再構築され、七北田川の流路は確保された。大量の水が潟湖に直接流れ込むことはなくなり、砂の浸食はほぼおさまり地形は安定しつつある。震災前と比較して海岸線はだいぶ内陸よりのままではあるが、一時期は七北田川の河口になっていた部分も含めて東部の砂浜の厚さは増してきている。七北田川や太平洋と仕切られることで、干潟の汀線の位置も変化が小さくなり、新たな生態系形成の準備が整っていくことが期待される。

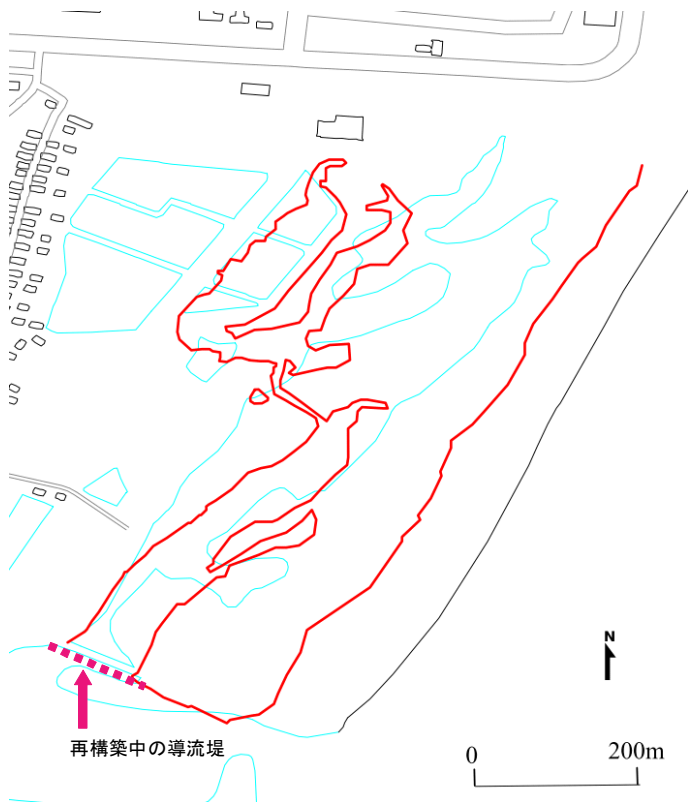


図1 2012年4月18日の蒲生干潟

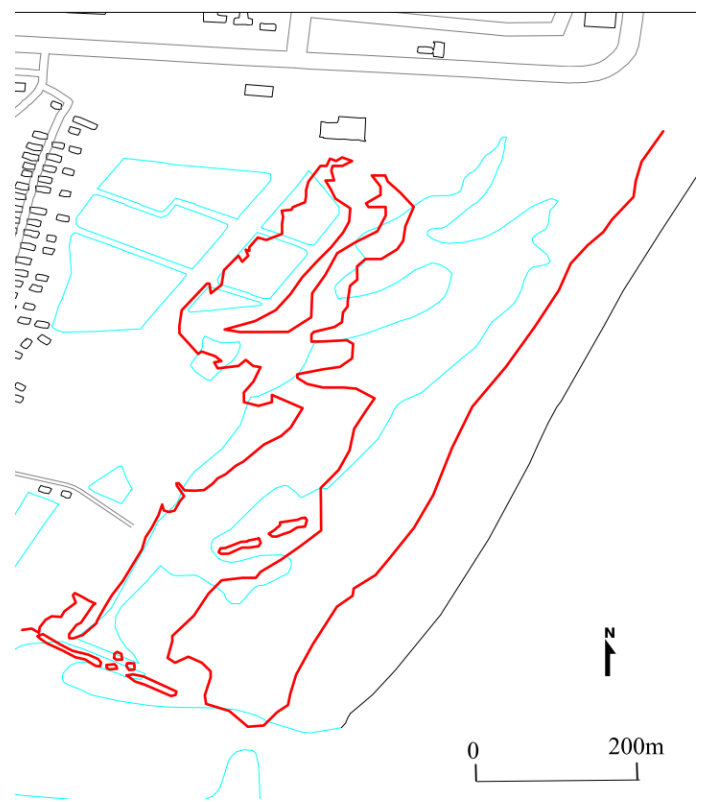


図2 2012年10月26日の蒲生干潟



図3 導流堤が再構築。人工的変化ではあるが、干潟再生に寄与するであろう。(4月18日)



図4 潟湖の汀線のように。貝殻の小片などを中心に小規模な浸食構造がみられる。(9月18日)



図5 海岸線の位置に大きな変化はないが、砂浜は厚みを増してきたようである。(10月26日)